



被災地で、発達障害児・者に対応されるみなさんへ（その3）

◆発達障害のある人の困っていることへの気づき

避難所の生活や災害時の特別な状態での家庭生活が長期化するにつれて、徐々に心身ともに疲れやストレスが蓄積してきます。そのこと自体は発達障害のある人もない人も同じですが、周囲から見てわかりにくい発達障害の場合に特に必要となる視点をまとめました。

発達障害の人やその家族が困っている様子に気づくためには、若干の知識とコツを身につけておくことが必要です。以下の視点や例を参考にして、まずは困っていることに気づいてあげてください。

● 健康状態の把握

・発達障害のある人の場合は、体調や怪我について我慢しているのではなく、本人自身が気づいていない場合があります。気づかずにそのまま放置すると、体調や怪我の状態が悪化してしまう場合がありますので、丁寧な観察と聞き取りが必要です。

◆気づくための観察例

- ・息切れ、咳などが頻繁でないか。
- ・やけどや切り傷、打撲などがないか。
- ・着衣が濡れたままでも着替えていないということがないか。

◆気づくための質問例

- ・いつもより寒くないですか？ 歩くときにふらふらしませんか？
- ・頭のこぶ、腕や足に怪我がありませんか？
- ・洋服の着替えがありますか？

● ストレス状態の確認

・発達障害のない人には平気なことでも、発達障害のある人には日常生活に困難さを感じるくらい苦痛に感じていることがあります。発達障害のない人よりもストレスの蓄積が起きやすいので、支援を優先的に考える必要がある場合があります。

◆気づくための観察例

- ・好き嫌いによる食べ残しが多くないか。
- ・物資の配給のアナウンスがあっても、反応が遅かったり、どこに行っていていいかわからず困っているようなことがないか。
- ・耳ふさぎや目閉じなど、刺激が多くて苦しそうな表情をしていないか。

◆気づくための質問例

- ・食べられない食材がありましたか？
- ・配給に並ぶ場所がわかりましたか？
- ・他の場所（避難所内外）へ移動したいという希望はありますか？

●家族の状態の確認

・災害の影響で子どもから家族が離れられなくなる場合や、避難所の中で理解者が得られない場合などに、発達障害のある人の家族のストレスは高まります。本人の支援を一番長い時間担当するのは家族であり、家族のサポートを迅速に行うことは効率的といえます。

◆必要になる場面

- ・多動や衝動的な行動、奇声やパニック、こだわり行動などがあって、家族が本人との対応に追われている場合。
- ・子どもの行動のことで、周囲の避難所にいる人に理解や協力を得られずに孤立している場合。

◆家族への具体的な声かけ

- ・一日の中で、どのような時間が一番大変ですか？
- ・どの場所で大変さを感じますか？

●周囲に対応に協力してくれる人がいるかどうかの確認

・発達障害のある人は、一人ひとりの健康状態、ストレスの蓄積につながる状況などが個々様々で、対応方法が見つけにくいことがあります。個別的な配慮が必要になる場合は、周囲に本人をよく知っている人がいるか、その人は対応に協力してもらえそうか確認しておく必要があります。

◆必要になる場面

- ・トイレの場所や食事の時間など、頻繁に会場責任者のところに質問に来る人がいた場合。

- ・周囲と全くかかわらない人がいる、発達障害のある人が繰り返し叱られているなど、集団の大多数の動きとは違う状態を示している場合。

◆具体的な声かけ

- ・（発達障害のある人に）困ったときに、相談できそうな方は近くにいますか？ 普段はどんな人に相談していますか？
- ・（その他、周囲の人に）普段の様子をご存じの方はいますか？ 対応に協力していただける方はいますか？



<http://www.rehab.go.jp/ddis/>

発達障害情報センター

